

「公的医療機関等2025プラン」より

病院名	長浜赤十字病院	市立長浜病院	長浜市立湖北病院
<p style="text-align: center;">1 現 状</p> <p style="text-align: center;">診療実績 ・ 機能特徴 等</p>	<p>救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害医療センターおよび第2種感染症指定医療機関等の指定を受けた公的医療機関として、また、地域医療支援病院として、地域において必要とされる5疾病すべてと、へき地医療を除く4事業の医療提供に積極的に取り組むとともに、地域との医療連携の充実に努めている。</p> <p>救急医療： 湖北区域の急性期医療を担う基幹病院として、救命救急センターを増築、3次救急を中心に救急患者の診療にあたる。近年増えつつあるドクターヘリによる広域搬送にも対応すべく救急医療体制の維持に努めている。</p> <p>がん診療： 滋賀県地域がん診療連携支援病院の指定。集学的・専門的ながん医療の提供、患者・家族へのがん相談機能、市立長浜病院と協力して湖北区域の医療機関に対する診療支援、医療従事者や市民への研修等を行っている。</p> <p>小児・周産期医療： 地域周産期母子医療センターとして、県内全域よりハイリスク妊産婦の受け入れを行う。NICUの充実を図り、超・極低出生体重児の新生児医療を担う。</p> <p>精神科分野： 県内初の精神科救急入院施設。湖北湖東の精神科病院と連携し、精神科基幹病院として急性期医療を担う。</p> <p>地域医療支援病院： 地域の保健・医療・介護等関係機関との連携強化。滋賀県医療情報連携ネットワークを積極的に運用し、病病・病診連携を推進。地域包括ケア病棟の設置、退院支援の強化。</p> <p>災害医療： 災害発生時の迅速な対応に向けたスキルアップ。平時からの地域貢献。</p>	<p>○施設の特徴 急性期病院： 最新の診断機器や高度な手術機器を用いたチーム医療により地域住民へ質の高い医療を提供し、総合的な診療提供体制の維持に努めている。 急性期医療の基幹病院として、5疾病領域のうちのがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病を始めとした急性期医療を行っている。中でも、循環器系（血管疾患等）、脳血管系、呼吸器系、筋骨格系、腎尿路系の治療に多くの実績を有する。</p> <p>地域がん診療連携拠点病院： 集学的、専門的ながん医療の提供、湖北区域の医療機関への診療支援、研修・啓発、がん相談機能等を有する。</p> <p>回復期リハビリテーション病棟： 脳血管系・筋骨格系を中心に早期回復・在宅復帰の支援体制を整備。地域包括ケア病棟と療養病棟によりあらゆる医療需要に対応できる体制を確保している。</p> <p>訪問看護ステーション機能： 在宅療養支援の体制を有する。</p> <p>退院支援・地域医療連携： 平均在院日数が全国水準と比較し若干短い傾向。</p> <p>診療支援棟（H27年10月から稼働）： 急変した患者への最短時間・最短移動距離で診療・診断できる体制を確保している。</p> <p>○診療実績（平成28年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均在院日数 13.4日 ・病床稼働率 <ul style="list-style-type: none"> 一般病棟 65.2% 地域包括ケア病棟 53.3% 療養病棟 61.0% 	<p>○施設の特徴 居住地別受診者は、入院・外来ともに約98%が長浜市在住で、特に市北部地域の患者が多く、地域密着型の市民に身近な病院。内科、外科、小児科、泌尿器科、眼科および歯科口腔外科を中心とする医療を展開している。</p> <p>長浜市北部地域唯一の有床医療機関であり、ケアミックス病院として、急性期から回復期および慢性期までの継続した医療を提供するとともに、併設の介護老人保健施設をはじめとする介護・福祉施設等と連携し、退院後における在宅療養までを支援している。</p> <p>さらに訪問看護ステーションや訪問診療など在宅療養支援病院としての役割も担っている。また、へき地医療拠点病院として昭和52年当初から診療を実施している中河内地区をはじめ、杉野地区および金居原地区への週1回の巡回診療ならびに無医地区への訪問診療を実施している。</p> <p>○診療実績（平成28年度実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均在院日数 10.8日 （平成28年度一般病棟実績） ・病床稼働率 <ul style="list-style-type: none"> 一般病棟 70.4% 地域包括ケア病棟 50.2% 療養病棟 80.6%
<p style="text-align: center;">2 課 題</p>	<p>〈機能別病床数〉 区域内は、高度急性期・急性期が多いものの、回復期が必要数の半分程度しかなく、急性期の治療後、リハビリテーション等の回復期の治療段階の患者は湖北区域以外の病院への転院が余儀なくされるケースが多々ある。今後湖北区域において、回復期および慢性期の機能をいかに充実させていくかが課題となっている。</p> <p>〈人材〉 医師不足が顕著であり、眼科、呼吸器内科、呼吸器外科、血液内科に常勤医師がいず、休診中となっている。平成29年度の初期臨床研修医も湖北・湖東区域で一人となっており、医師の確保は湖北区域にとって切実な課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区域で求められる役割を果たすためには、継続的な医療の質を高めるための取り組みと外来受診体制の見直しなどによる待ち時間短縮などの患者サービス向上を進める必要がある。 ・医師等医療職員の確保が十分にできないことにより一部の診療領域で需要に充分対応できないケースや、病床利用率の低下による経営基盤の悪化が生じているため、医療職員の確保が必要である。 ・経営基盤の健全化のため業務の効率化と機能の集約化に継続して取り組む必要がある。 ・7対1の看護体制による手厚い看護に必要な職員を配置しているが、継続して急性期医療を提供するためには、病床管理体制を見直す必要がある。 ・地域包括ケアが推進されている情勢下、急性期医療を担う病院として、「かかりつけ医」の推進と、診療所との連携機能分担を進め、地域医療連携を推進する必要がある。 ・療養病棟は、医師不足に伴い十分機能が発揮できていない部分があり、医療需要を見極めつつ院内体制の見直し等を進める必要がある。 ・計画的な施設保全を行うファシリティマネジメントの推進が必要。病床規模など施設形態の適正化に向けて研究・検討を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市北部地域における診療体制維持のため、地域にない診療科の確保や、専門医療を提供していく必要がある。このため、医師、看護師など専門職の安定的な人材確保が課題となっている。 ・一般病棟、地域包括ケア病棟および療養病棟のそれぞれの特性を活かすとともに、病床利用率の向上を図る必要がある。 ・在宅療養支援病院として在宅療養を望む患者が安心できる体制をさらに充実していく必要がある。 ・へき地医療拠点病院として無医地区への巡回診療や訪問診療を継続して実施するため、へき地医療に携わる医師を確保し、育成していく必要がある。 ・地域包括ケアシステムの構築に向け、近隣の病院や地域の診療所との連携をさらに強化する必要がある。

「公的医療機関等2025プラン」より

病院名	長浜赤十字病院	市立長浜病院	長浜市立湖北病院																		
<p style="text-align: center;">3 今後の 方針</p> <p>地域において今後担うべき役割 ・ 今後持つべき病床機能 ・ その他見直すべき点</p>	<p>○地域において今後担うべき役割</p> <p>1)急性期病院としての役割 ①救命救急センターの体制を維持し、湖北区域の救急医療の基幹的医療機関として内科系・外科系・小児科系・精神科分野に幅広く対応する。 ②地域周産期母子医療センターとして、施設・設備を整え、正常分娩からハイリスク妊産婦、健常新生児から低出生体重児まで総合的に対応する。 ③滋賀県地域がん診療連携支援病院として、手術・化学療法・放射線療法・緩和ケアと総合的に充実したがん医療が提供できるよう、入院医療から外来医療・在宅医療に至るまで多職種によるチームでのかかわりを推進する。</p> <p>2)地域包括ケアシステムの一翼を担う地域医療支援病院としての役割 地域医療支援病院として、地域の医療・介護関係機関との連携を強化し、紹介・逆紹介により患者が地域どこにおいてどこでも一貫した医療・介護が受けられるよう、情報提供・合同カンファレンス・事例検討会等地域の医療・介護従事者の資質向上を推進する。</p> <p>3)地域災害医療センターとしての役割 災害時において災害拠点病院として機能が発揮できるよう、資器材の整備、医療材料や非常食の備蓄はもとより、救護訓練への参加や、催事への救護所の開設など、日本DMAT隊員、赤十字救護班要員のスキル向上を図り万一の事態に備える。</p> <p>○今後持つべき機能 機能別病床数については、高度急性期、急性期は過剰となっているものの、地域の状況を鑑みて、高度急性期病棟は現状維持、急性期病棟についても高度急性期病棟からの移動の受皿となる部分もあり、現状維持。 <u>回復期病棟</u>としては、地域包括ケア病棟が施設基準においてこれ以上設定できないこともあり現状維持。 <u>慢性期病棟</u>については整備予定はない。 <u>精神科病棟</u>については、急性期の救急病棟を40床と慢性期病棟の30床の現状を維持する。</p>	<p>○地域において今後担うべき役割 高度急性期・急性期機能は、自院が有する診療領域において、長浜赤十字病院との役割分担を図りながら機能強化を継続的に進めていく。今後湖北区域では、高度急性期・急性期病床が過剰になると予測されていることから、病床規模の見直しに向けた検討を進める。 回復期機能は、今後需要が拡大すると予測されていることから、回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟の院内体制を整え、役割が担えるよう、病床規模の見直しに向けた検討を進める。 慢性期機能は、区域外への患者の流出が多い実態があるので、療養病棟の運営状況を見極めつつ、病床規模のあり方を検討する。 在宅療養支援では、訪問看護ステーションを維持・強化していく。地域連携や入退院支援に係る院内体制を充実させることで、住民を支える地域包括ケアシステムの構築に向け、市の方針に沿って役割を果たせるよう努める。</p> <p>○今後持つべき病床機能 一般急性期機能は、限られた医療資源を最大限に活かし、地域に必要な医療の提供を続けていく必要がある。 回復期・慢性期機能は、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟それぞれの特徴を活かし、効果的な運用を検討し、必要な病棟機能として継続していく必要がある。</p> <p>○その他見直すべき機能 湖北区域は、医療職員の慢性的な不足・慢性期機能の不足が大きな課題となっていることから、自院では、湖北区域の中で果たすべき役割を検討し、限られた医療資源の中でそれらの課題にいかに対処するかという観点を踏まえ、役割分担と機能再編について、継続的に研究・検討していく。</p>	<p>○地域において今後担うべき役割 市北部地域唯一の病院であり一般急性期、回復期および慢性期までの診療を提供するとともに、高齢化著しい当地域での在宅療養支援機能を担う病院として取り組みを進めていく必要がある。また、地域密着型の病院として保健・健診活動も提供していく。</p> <p>回復期・慢性期機能については、地域包括ケア病棟と療養病棟のそれぞれの特徴を活かし、効果的な運用を検討するとともに、リハビリテーションの充実、在宅復帰に向けた支援機能の強化を図る。また、生活習慣病などの増加に伴い需要が拡大している人工透析機能についても継続していく。 在宅療養支援機能を担う病院として、関係する医療機関および介護施設等との緊密な連携を図り、在宅等で症状が悪化した場合の入院受け入れ等を行うほか、訪問看護ステーションの充実や訪問診療についても継続的に行っていく。 市北部地域の基幹病院として併設の介護老人保健施設をはじめとする介護・福祉施設等との連携を図りながら、訪問診療、訪問看護ステーションによる在宅支援を充実させ、「保健、医療、介護に切れ目のない」連携を図ることにより、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域包括ケアシステムの構築に向け、市の方針に沿って役割を果たせるよう努める。</p> <p>○今後持つべき病床機能 一般急性期機能に対しては、限られた医療資源を最大限に活かし、地域に必要な医療の提供を続けていく必要がある。 回復期・慢性期機能については、地域包括ケア病棟と療養病棟のそれぞれの特徴を活かし、効果的な運用を検討する。</p> <p>○その他見直すべき点 湖北区域は、医療職員の慢性的な不足・慢性期機能の不足が大きな課題となっていることから、自院は湖北区域の中で果たすべき役割を検討し、限られた医療資源の中でそれらの課題にいかに対処するかという観点を踏まえ役割分担と機能再編について継続的に研究・検討していく。</p>																		
<p style="text-align: center;">4 具体的な 計画</p>	<p>1. 4機能ごとの病床のあり方について 高度急性期、急性期、回復期については、変更なし。 慢性期については、整備予定なし。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在 (H28病床機能報告)</td> <td>178</td> <td>210</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>将来 (2025年度)</td> <td>179</td> <td>201</td> <td>46</td> <td>0</td> <td>426</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 診療科の見直しの予定なし</p>		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	現在 (H28病床機能報告)	178	210	46	0	434	将来 (2025年度)	179	201	46	0	426		
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計																
現在 (H28病床機能報告)	178	210	46	0	434																
将来 (2025年度)	179	201	46	0	426																

※平成29年10月に各病院より提出のあった「2025プラン様式等」に基づき作成した。